

技術力

調査理事 柳川 隆之



我が国の電子産業は生産高がGNPの約6%に達する基幹産業になっている。これを支える主要な柱の一つが技術であり、種々の分野でこれまでのお手本であった欧米を陵駕したといわれている。ただ、人的・資金的リソースの限界が問題視されつつあるいま、生産性という考え方が重要になるが、我が国の技術者の生産性が本当に他国より高いのかという一考の余地があるように思われる。

技術の生産性にはマネジメントや支援ツールの影響も大きいですが、鍵を握るのは個々の技術者の能力である。我が国の技術者、特に企業における技術者は自分の組織への帰属意識が強く、自己を抑えても組織のために力を合わせる事ができた。こうした我が国の集団指向的な特質は製造面で大きな力となり、産業の発展に貢献してきたことはよく知られている。一方、個人主義の強い欧米では技術者が働くのはあくまでも自分のためという考え方が基本にある。このことは組織内での技術の蓄積に問題を投げかけるものの、個々の技術者には頼るのは自分しかないというプロの厳しさを要求する。

昨今では我が国でも自己を主張する気風が強まっており、現在はちょうど集団指向と個人指向の考え方が混在している時期にある。自己を主張するのは大変結構であり、時代の趨勢として今後も強まる傾向にあらう。この両方の考え方にはそれぞれ長所と短所があり、両者の長所がうまく組み合わさって発揮されることを目指すのが望ましい。ここで重要なのは個人主義の長所は技術者各人の技術力向上の努力に伴って発揮されるものであるということである。

そこで一つ懸念される現象は、技術者の持つ技術の幅という点で、現在では、必ずしも我が国の優位性が主張できなくなっているのではないかということである。例えば、国際会議の論文選考委員会で欧米の委員が幅の広い技術分野にわたりつつこんだ論評を加えるのに感心させられる。また、技術の打合せに出席する人数が先方より多数になることがままある。電子システムが巨大化複雑化する中でより短期間に製品を世に出していくためには、個々の技術者の技術の幅を広げることは、ますます重要な課題である。欧米の技術者の技術の幅の広さは、個人ベースの厳しい競争社会の中で時代の要求に応え、よりよいポジションを獲得しようというプロ意識の一つの現れと考えるのはあながち買いかぶりではなからう。

電子技術の総合学会である本会は会誌や多方面にわたる研究成果の発表を通じて会員の皆様が幅広い技術に触れる機会を提供することができる。この特長を皆様が積極的に活用していただければ幸いである。